

山陽小野田市立山口東京理科大学 地域連携・社会貢献レポート

2022 年 4 月～2023 年 3 月



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学

学長 望月 正隆

平素から、本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。地域連携・社会貢献レポートをお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

山陽小野田市立山口東京理科大学は、公立大学の特徴を活かし、地域社会と地域産業の進行・発展に寄与する社会貢献活動を積極的に取り組んでいます。

本学では「教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実」を基本理念の一つとして掲げており、山陽小野田市立の高等教育機関として、山陽小野田市教育委員会と連携し、市内の小・中学校を対象とした出前実験講座「ほんものの科学体験講座」や「おくすり教室」を実施しており、また、就職、復職や起業等を希望している薬剤師の方々、子育て等で離職した女性薬剤師の方々、新しい地域貢献機能を持つ薬局経営に意欲的な若手・中堅・シニアの薬剤師の方々を対象に、デジタルトランスフォーメーション(DX)の手法を活用した教育として「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」を行い、即戦力となり得る実践的な知識や起業精神を身につけた薬剤師を養成するなど、市内の初等中等教育との連携のみならず、生涯学習を強化し、人材育成の街、「緑の中でキラリと光る研究学園都市」の実現に向けて、山陽小野田市立山口東京理科大学を地域になくてはならない存在に成長させるべく取り組んでいるところです。

令和4年4月には、地域文化の向上及び地域活性化のための事業を地域と協働して企画・立案・実行し、地域貢献活動を組織的に遂行することを目的として、生涯学習センターを設置しました。また、産学官連携や地域社会との交流を目的に、大学の教育の現場や科学技術等に市民らが触れられる機会として第1回「大学開放デー」を開催しました。この催しには市内外から約800人の来場があり、このうち市民講座には約130人、大学の技術シーズと企業の技術ニーズのマッチングを図る産学連携コーナーには約50人の参加がありました。

教育については、大学の特徴の一つとして、学部横断的に数理データサイエンス系教育の充実を図っており、令和5年4月には工学部に「数理情報科学科」を新設し、数理的素養を身に付けたデータサイエンティストを養成するという新たな教育目標を実行していきたいと考えております。このほか、薬学部では、医薬品の製造と品質管理に関する国際基準の知識と技術を身に付けた薬剤師を育成する「GMPカレッジ」を、山口県・山口県製薬工業協会と連携して取組むとともに、地域で活躍する病院薬剤師、行政薬剤師、薬局薬剤師から仕事内容や職場について学ぶ「薬学的サイエンス・カフェ」を、山口県・山口県薬剤師会と連携して取り組んでいるところです。学生の教育に対する満足度も高い水準を維持しており、引き続き質の高い教育を進めていくこととしています。

どうか市民・県民の皆様、また、関係者の皆様には、私たちのビジョンやその実現に向けた活動について、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

山陽小野田市立山口東京理科大学の地域連携・社会貢献の取り組み

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2022年4月1日から2028年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」(第2期)に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2022年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介します。

<地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画>

1. 「知(地)の拠点」の役割を発揮するための組織体制等の整備・充実

(1) 地域社会との連携を積極的に進め、地域や行政のニーズを把握し、それらが抱える課題の解決に資するため、大学の持つ知的・人的資源を効果的に活用し、シンクタンク機能を発揮することにより、地域社会の持続的発展に貢献できる「知(地)の拠点」としての役割を果たします。

(2) 地域貢献活動の積極的な展開

地域貢献活動に対する高い意欲と意識を持ち、産学官連携や地域社会との交流を積極的に推進します。また、公開講座の開催や新たな社会人教育プログラムの提供など、多数の者が大学の教育と研究活動に触れ学ぶことができる山口東京理科大学ならではの生涯学習プログラムを推進することで、学生だけでなく市民や社会人が集う「地域に開かれた大学」を目指します。

2. 企業・医療機関・他の高等教育機関等との連携に関する目標

企業や医療機関、他の高等教育機関等との連携や地域社会との交流を積極的に推進することで、共同研究などによるイノベーションの創出や地域経済の発展に寄与します。

3. 教育機関との連携に関する目標

初等中等教育との連携、高大連携、他の高等教育機関との連携を積極的に展開し、学生及び教職員の幅広い分野での活動を促進することにより、大学外の多様な知的・人的資源の活用及びネットワークの充実を図り、地域教育の活性化に貢献します。

4. 学生の活動の場の創出に関する目標

(1) 学生の活動の場の創出に関する目標

学生が早い段階から教育研究及び地域貢献に対する明確な目的意識を持って活動を行い、産学官及び地域社会との連携・交流の促進を図るとともに市のまちづくり施策にも積極的に参画できる機会の創出に取り組みます。

(2) 学生生活充実のための支援の充実

学生寮の整備や交通手段等をサポートし、学生の市内での活動の場を拡げ、充実した学生生活を送ることができる体制・制度の構築に努めます。

目 次

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって	1
本学の地域連携・地域貢献の取り組み	2
1. 市民への貢献	
(1) 薬草による健康づくり講座	5
(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」	5
(3) 改訂版「こどものための感染対策カルタ」を寄贈	6
(4) サイエンス・カフェ	6
(5) 令和4年度研究成果発表会	7
2. 高等学校との連携	
(1) 教育連携会議を開催	8
(2) 出前講義	8
3. 産業界との連携	
(1) 山口県 GMP カレッジワークショップを開催	9
(2) 第275回コロキウム・やまぐち自動車産業魅力発信セミナーを開催	10
(3) AI 研究デザインセミナー × マッチングイベント	11
(4) イノベーション・ジャパン2022 大学見本市 Online	11
(5) 商工会議所会報による研究紹介	12
(6) 薬学部研究シーズ発表会	13
4. 地域団体との連携	
(1) 「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」を開講	14
(2) 大学開放デーを開催	15
(3) 薬剤師向けオープンキャンパスを開催	16
(4) 第34回夏休みジュニア科学教室を開催	17
5. 学生による地域貢献	
(1) 「おくすり手帳」啓発ポスターを制作	18
6. 地域の知を教育に生かす取り組み	
(1) 大学リーグやまぐち	18
(2) 地域卒業研究	19
(3) リーダーシップ論	20
(4) 地域技術学	20
(5) 地域産業論	21

(6) 地域社会学	21
(7) 市内県内企業見学	22
(8) 薬学教育のための市民模擬患者	23
(9) 行政薬剤師による講義	24
(10) 市内企業インターンシップ	24
(11) 県内企業インターンシップ	24
(12) 学術と地域文化	25
 7. 地方公共団体との連携	
(1) 山陽小野田市長による特別講義	26
(2) 市立図書館との相互利用	27
(3) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用	27
(4) 住まいる奨励金	27
(5) スマイルチケットを本学学生全員に配布	28
(6) 各種委員の応嘱（行政関係）	28
 8. 消防署との連携	
(1) 学生消防団員	30
(2) 防災訓練	30
(3) 普通救命講習	31
 9. その他の取り組み	
(1) 船鉄バスのフリーパスについて	32
(2) 研究機器の開放	32
 10. 地域からの入学	
(1) 地域推薦	32
(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）	32
 11. 地域への人材輩出	33
 12. 地域への経済波及効果	33
 13. 市内人口の約 35 人に 1 人が理科大生	33

1. 市民への貢献

(1) 薬草による健康づくり講座

開催日：2022年5月21日（土）～2023年2月18日（土）

主 催：総合型地域スポーツクラブ「すげえちゃ・高泊」

後 援：（公財）山口県体育協会・生涯スポーツ推進センター、山陽小野田市

場 所：江汐公園、竜王山、山陽小野田市民館、山口東京理科大学

担 当：薬学部薬学科 嶋本顕 教授、田中宏幸 教授、今堀大輔 助教
共通教育センター 宇野直士 講師

内 容：本学は共催として参画し、薬用植物をキーワードに広く市民の方々を対象に薬草講座を開催しています。2022年度はeスポーツや気功体験などこれまでにない企画も含め全10回で開催しました。6月18日（土）の「大学で学ぶ薬用植物」では、薬学部薬学科の田中宏幸教授が講師を務め、約30名の受講生に対して教室と構内薬用植物園で講義を行いました。



(2) 小・中学校出前実験「ほんものの科学体験講座」

「ほんものの科学体験講座」とは、平成28年度から山陽小野田市教育委員会との連携の下、実施している山陽小野田市内の小・中学生を対象とする出前実験講座です。

本学教員による科学実験や講義を通じて、児童・生徒たちに「ほんものの科学」の楽しさを体験してもらうことを狙いとしています。令和4年度は、市内全ての小・中学校17校で37回実施し1435名が受講しました。



(3) 改訂版「こどものための感染対策カルタ」を寄贈

担 当：薬学部薬学科 坂井久美子 講師、百溪江 教授、緒方浩二 教授、
福島聡 助教、外部共同研究者 小林晃子

内 容：2021年度に寄贈した「幼児のための感染対策カルタ」の使用後アンケート結果をもとに、改訂版「こどものための感染対策カルタ」を作成し、前回寄贈した山陽小野田市近郊の保育園や幼稚園及び近隣の学童保育施設、学会を通じた全国の就学前施設、および県内の公立保育園に寄贈しました（289施設・R5年2月）。



(4) サイエンス・カフェ

山陽小野田市立中央図書館を会場に、本学教員が大学で取り組んでいる専門分野について分かりやすく紹介しました。2022年度の開催状況は次の通りです。

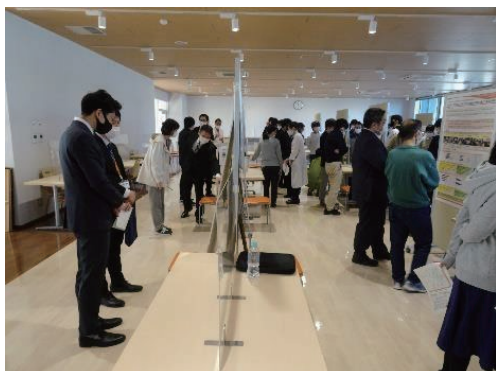
回 次	日 付	講 師	テーマ	参加人数
第40回	2022年5月14日	工学部電気工学科 大嶋 伸明 講師	真空と大気圧とプラズマ	14
第41回	2022年6月4日	薬学部薬学科 嶋本 頭 教授	細胞医学が切り拓く医療の未来 －細胞の老化と若返り、そして再生医療－	20
第42回	2022年8月20日	工学部機械工学科 吉村 敏彦 教授	泡の不思議 -泡から生まれる新材料	18
第43回	2022年10月29日	薬学部薬学科 堀口 道子 講師	生活リズムを整え健康増進	21
第44回	2022年12月24日	共通教育センター 金田 和博 教授	巷でささやかれている半導体不足について考える	15
第45回	2023年2月4日	薬学部薬学科 西本 新 教授	抗腫瘍効果の増強をもたらす抗癌剤・阻害剤の組み合わせを探る	13

(5) 令和4年度研究成果発表会

開催日：2023年3月13日（月）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：活気のある研究風土の醸成を図ることを目的に「令和4年度研究成果発表会」を開催しました。地域課題に関連した研究や若手研究者による研究など、様々な分野から計31テーマの発表がありました。教員や学生を中心に152名の参加があり、活発な質疑応答、意見交換が行われました。



2. 高等学校との連携

(1) 教育連携会議を開催

開催日：2022年7月26日（火）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市、山陽小野田市教育委員会、小野田高校、厚狭高校、小野田工業高校、サビエル高校及び山陽小野田市立山口東京理科大学は、「学ぶ喜び、知る喜び」をテーマに、緊密な協力関係を築き、山陽小野田市域における小学校から大学までの一貫教育を目指し、進学支援活動、教育支援活動、生涯学習支援活動、その他教育連携の4項目で連携する「包括連携教育・協力に関する協定」を締結し、「教育連携会議」を定期的を開催しています。

(2) 出前講義

高校生を対象に、本学教員が高校に出向く出前講義を行いました。

2022年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

日付	派遣先	所属学科	担当教員	職位	タイトル
6月3日 金	山口県立山口中央高等学校	共通教育センター	浅野 比	准教授	「地球温暖化について～温暖化の現状と課題～」
6月14日 火	山口県立小野田高等学校	工学部機械工学科	吉田 和司	教授	「紙幣の枚数は間違えない……ATMのメカニズム」
6月14日 火	山口県立小野田高等学校	薬学部薬学科	松永 浩文	教授	「薬学とは何か～最近の動向からくすりを創る考え方まで～」
7月12日 火	慶進中学校・高等学校	共通教育センター	土井 浩	教授	「至誠の人 一吉田松陰一」
7月13日 水	宇部フロンティア大学付属香川高等学校	薬学部薬学科	伊豫田 拓也	准教授	「身体の平和に“食べ”て貢献。食細胞の不思議」
7月15日 金	山口県立熊毛南高等学校	工学部電気工学科	井上 啓	教授	「人工知能プログラムの基礎」
9月16日 金	慶進中学校・高等学校	工学部電気工学科	井上 啓	教授	「人工知能プログラムの基礎」
9月28日 水	山口県立宇部工業高等学校	薬学部薬学科	和田 光弘	教授	「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」
9月29日 木	山口県立厚狭高等学校	工学部機械工学科	永田 寅臣	教授	「ものづくりで活躍するロボットと3Dプリンター」
10月19日 水	山口県立下関西高等学校	薬学部薬学科	松永 浩文	教授	「くすりを創る～方法と考え方～」
10月24日 月	サビエル高等学校	薬学部薬学科	和田 光弘	教授	「乱用薬物とその分析方法」
10月24日 月	山口県立萩高等学校	薬学部薬学科	黒川 陽介	教授	「薬剤師って何？～あなたの疑問にこたえます～」
10月26日 水	山口県立宇部中央高等学校	共通教育センター	金田 和博	教授	「エネルギー問題を考えよう～太陽電池を中心として～」
10月26日 水	山口県立下関南高等学校	薬学部薬学科	松永 浩文	教授	(タイトル不明)
11月8日 火	山口県立下関中等教育学校	薬学部薬学科	百瀬 江	教授	「グーグルエクスペディションで世界を旅してみよう」
11月8日 火	山口県立下関中等教育学校	共通教育センター	福田 みのり	准教授	「心理ゲームと心理学」
11月8日 火	山口県立岩国高等学校	薬学部薬学科	恵谷 誠司	教授	「薬剤師職能の紹介～海外での災害医療支援と薬剤師～」
11月9日 水	山口県立美祿青嶺高等学校	工学部電気工学科	大嶋 伸明	講師	「プラズマについて」
11月17日 木	山口県立小野田高等学校	工学部応用化学科	佐伯 政俊	講師	「タンパク質を定量してみよう」
2月10日 金	山口県立山口中央高等学校	薬学部薬学科	坂井 久美子	講師	「山陽小野田市立山口東京理科大学薬学生が今学んでいること」
3月14日 火	山口県立新南陽高等学校	薬学部薬学科	黒川 陽介	教授	「薬剤師って何？～あなたの疑問にこたえます～」
3月17日 金	山口県立徳山高等学校	薬学部薬学科	沖田 直之	講師	「人の身体と薬の運命」

3. 産業界との連携

(1) 山口県GMPカレッジワークショップを開催

開催日：2022年7月27日（水）、10月31日（月）、11月24日（木）・25日（金）、
11月29日（火）、2023年2月3日（金）、2月9日（木）・10日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学・企業現地

内 容：山口県GMPカレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会、本学の産学公連携により医薬品製造所の人材育成・人材確保の支援およびGMPに係る人材育成プログラムの作成・実施を目的とした、本学薬学部学生および医薬品製造所従事者向けの事業です。2022年度は薬学部の1～5年生を対象としたワークショップを6回開催しました。

ワークショップ	日 時	概要
1	7 月 27 日	セントラル硝子（株）宇部工場から、本学 1 年生を対象に、GMP の講演。「学術と地域文化 1」の授業の中で実施
2	10 月 31 日	小野薬品（株）山口工場にて、本学 4 年生を対象とし、製造所紹介、注射剤の製造・試験の見学・体験
3	11 月 24 日・25 日	日本歯科薬品本社及び福浦工場にて、本学 5 年生を対象に、研究開発及び製造・分析の体験学習・薬剤師等との交流
4	11 月 29 日	帝人ファーマ（株）から本学 3 年生を対象に GMP の講演
5	2 月 3 日	熊本保健科学大学及び山口県製薬工業協会から、本学 2 年生を対象に GMP の講演
6	2 月 9 日・10 日	UBE（株）宇部医薬品工場にて、本学 5 年生を対象に、製造・分析の体験学習、薬剤師との交流



(2) 第275回コロキウム・やまぐち自動車産業魅力発信セミナーを開催

開催日：2022年11月1日

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山口県と本学の連携により、第275回コロキウム・やまぐち自動車産業魅力発信セミナーを開催しました。

<講演テーマ・講師>

「電動化新時代！～202X年デジタル・モビリティの時代が到来する～」

(株)日本電動化研究所 代表取締役 和田 憲一郎 氏

山口県は県内総生産に占める第2次産業の割合が約4割と、全国平均(約3割)に比べて高く、高度なものづくり技術を有する全国有数の工業県です。

特に、マツダ(株)防府工場及び関連企業が集積し、北部九州・広島県と合わせた自動車の一大生産拠点であることから、「自動車産業」は県の基幹産業の一つとなっています。

本セミナーでは、世界的な気候変動問題をきっかけとするガソリン車から電気自動車等への変化や自動車のデジタル化等、自動車産業をとりまく現状や今後の展望について、分かりやすく解説いただきました。今後の業界研究や学生の進路選択の参考にするとともに、地元山口県に対する理解を深めるという観点から、学部や専攻に関係なく、多数の教員・学生が聴講し、大変盛況なセミナーとなりました。



(3) AI研究デザインセミナー × マッチングイベント

開催日：2022年6月25日（土）

場 所：KDDI維新ホール（山口市産業交流拠点施設）

主 催：やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム

内 容：研究にAI技術を活用する研究者の増加を目的としてセミナーを開催するとともに、新たな研究活動への発展や異分野による共同研究チーム形成を目指してマッチングイベントを開催しました。



(4) イノベーション・ジャパン2022 大学見本市 Online

開催日：2022年10月4日（火）～ 10月31日（月）

場 所：オンライン開催

主 催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

共 催：文部科学省

内 容：国内最大級の産学連携マッチングイベント「イノベーション・ジャパン2022～大学見本市 Online～」に出展しました。

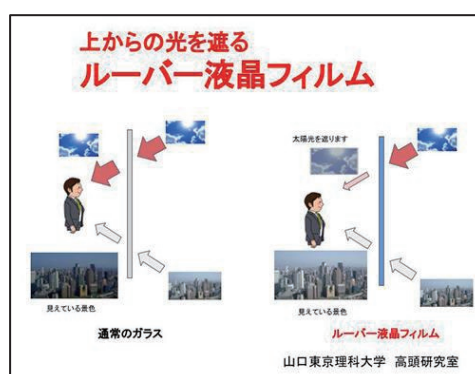
工学部 電気工学科

高頭孝毅 教授

伊藤雅浩 助教

入射角で透過率が変わる

ルーバー液晶フィルム



(5) 商工会議所会報による研究紹介

地元企業の皆様に、本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。2022年度に掲載した内容は次のとおりです。

テーマ	担当教員
細胞の接着環境変化を基盤として、ヒトの病気を理解する ～ 加齢性疾患に対する新規治療法の創生を目指して～	薬学部薬学科 伊豫田拓也 准教授
ゲノム複製の維持制御メカニズムから創薬へ	薬学部薬学科 川上広宣 准教授
心的外傷後ストレス障害（PTSD）における新規治療薬の探索	薬学部薬学科 相良英憲 准教授
病気を治す硫化水素の研究	薬学部薬学科 澁谷典広 准教授
生活環境中の化学物質による子供への健康被害を防ぐ	薬学部薬学科 立花研 准教授
薬学の中の生物統計学	薬学部薬学科 寺尾哲 准教授
ルミノール化学発光を利用した機能性食品の 抗酸化能評価に関する研究	薬学部薬学科 武藤純平 准教授
取り扱っている農水特産物に血糖値を 下げてくれる効果があるか知りたくありませんか？	薬学部薬学科 沖田直之 講師
幼児も“ハイッ！”とカルタで学べる感染症予防 ―未就学児施設の感染対策指導状況と教育ツール開発―	薬学部薬学科 坂井久美子 講師
“鏡の世界を区別して薬を創る” ―薬の鏡像と実像	薬学部薬学科 田村雅史 講師
神経発達障害を起こす神経細胞の「創・磨・伝」異常	薬学部薬学科 中川 直 講師
天然紫外線防御物質のサンスクリーン分子機構 に関する研究	薬学部薬学科 畠山允 講師

(6) 薬学部研究シーズ発表会

開催日：2023年2月22日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学、オンライン（ハイブリット開催）

共 催：山口県産業技術センター

やまぐち医療関連成長戦略推進協議会

山陽小野田市立山口東京理科大学

参加者：県内企業、大学、病院、関係機関等の方

計43名（現地：22名、オンライン：21名）

内 容：山口県内の医療関連分野における産学公連携（研究開発・事業化）の促進等を目的に「薬学部研究シーズ発表会」を開催し、多くの方にご来場いただきました。

（プログラム）

- ・本学研究者による研究シーズの発表（4件）
- ・本学の取組紹介
- ・山口県の施策紹介
- ・名刺交換会
- ・施設見学ツアー

研究シーズ発表テーマ



機能性食品類の成分分析および機能性評価技術

薬学部薬学科【分析化学分野】
和田 光弘 教授（学科主任）



長門ゆずきちの機能評価

薬学部薬学科【生薬学・漢方分野】
田中 宏幸 教授



細胞内時計の測定と疾患発症予測

薬学部薬学科【薬剤学・製剤学分野】
牛島 健太郎 教授



生体内イオウシグナル分子の医療応用

薬学部薬学科【薬理学分野】
木村 英雄 教授

4. 地域団体との連携

(1)「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」を開講

開講日：2022年10月～2023年3月

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学・オンライン

内 容：文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」（コースⅢ：重要分野のリカレントプログラムの開発・実施）に、本学の「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」が採択されました。

「薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム」は、就職・復職や起業等を希望している薬剤師、子育て等で離職した女性薬剤師、新しい地域貢献機能を持つ薬局経営に意欲的な若手・中堅・シニアの薬剤師の方々を対象に、デジタルトランスフォーメーション（DX）の手法を活用した新しい教育プログラムにより、即戦力となり得る実践的な知識や起業精神を身につけた薬剤師を養成するものです。

2022年10月～2023年3月までの受講期間を経て、39名の受講者、33回の講座を行いました。本学の教室や体育館での対面講義、地域の薬局実務実習、オンラインを活用した製薬企業見学・オンデマンド講義等、受講者から大変満足度の高いプログラム内容となりました。

文部科学省 令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」採択事業



薬剤師のDX 分野等スキルアッププログラム

山陽小野田薬剤師会 城戸 一兄 専務理事

山陽小野田薬剤師会 上林 雅樹 会長

受講者募集

受講料 無料

山口県健康エクスプレス
くすり 健康 介護
ご相談



(ロールプレイ演習の実践・患者役と薬剤師役の様子)

(2) 大学開放デーを開催

開催日：2022年9月25日（日）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：大学教育の現場や科学技術等に触れられる機会を提供し、地域の方に大学を身近に感じてもらうことを目的に「大学開放デー」を開催しました。
各会場では、市民フォーラム・科学作品展示・科学実験体験（高校・企業・大学）や親子ドローン教室・競技かるた体験・ダイバーシティ関連企画など様々なイベントが行われました。科学作品展示では、山陽小野田市からの表彰に加え、本学から理事長賞・学長賞の授与もありました。
当日は、山陽小野田市内外から約800名の方にご来場いただき、大変盛況なうちに終了しました。



(3) 薬剤師向けオープンキャンパスを開催

開催日：2022年10月30日（日）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学にて、「薬剤師向けオープンキャンパス」を開催し、山口県内の薬剤師（薬局、病院等）41名が参加されました。

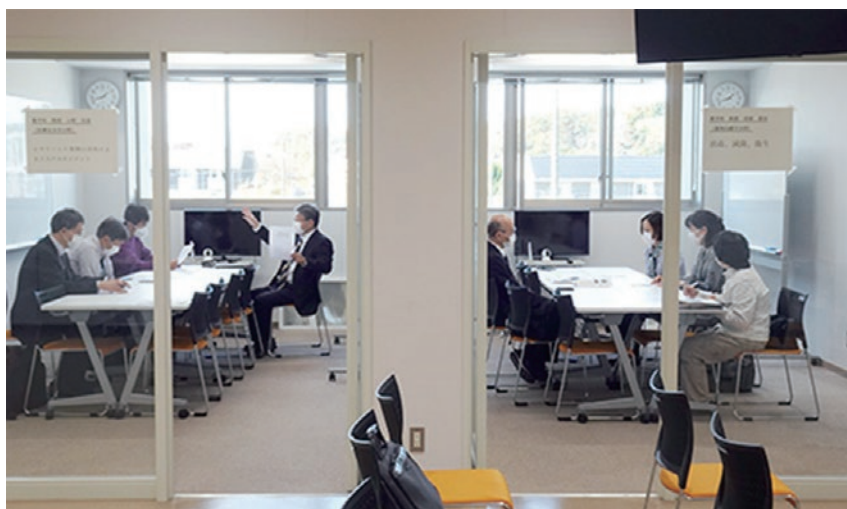
このイベントは、本学の薬学部生が使用しているキャンパス施設や授業などの雰囲気県内の薬剤師の方々に知っていただく機会として企画したものです。コロナ禍で延期を余儀なくされていましたが、このたび、ようやく開催することができました。

午前の部では、本学の池北雅彦理事長、県薬剤師会の吉田力久会長のごあいさつの後、本学薬学部の 和田光弘 教授が薬学部の紹介を行いました。

その後、嶋本顕 教授が「新しい薬剤師像の育成を担う大学院構想」についての説明を行い、続いて 小野浩重 教授が「ウィズコロナ時代の実務実習の在り方」をテーマに「本大学は、地域の特性を生かした医療の担い手として薬剤師を養成する教育・研究の場である」ことについての特別講演を行いました。

昼休みには、参加者全員に学食で食事をいただきました。そのほか、総合医療薬学の授業の様子の上映や、調剤室や製剤室、各研究室、薬草園などキャンパス内の自由見学がありました。

午後の部では、参加者と本学教員とが10グループに分かれ、プレナリーセッション室において研究室別SGD（Small Group Discussion）を行い、充実したオープンキャンパスとなりました。



(4) 第34回夏休みジュニア科学教室を開催

開催日：2022年7月29日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：夏休みジュニア科学教室※「くすりをデザインして作ってみよう！」を開催し、本学薬学部の堀口道子講師が講師を務めました。

当日は、参加した山口県内の小学5年生～中学2年生が、くすりのデザインについて学び、実際に水剤・カプセル剤、ぬり薬をデザインして作りました。さらに、薬局で使う薬の袋やお薬手帳を使って、薬剤師の体験をしました。くすりのデザインを実際に経験した参加者からは、「将来、薬剤師になりたい。」「くすりのデザインの工夫はとても面白い。」などの感想がありました。今回の経験を通じて、科学や薬剤師に興味を持ってくれる児童・生徒が一人でも増えてくれると幸いです。



※このイベントは、やまぐち産業振興財団を中心として、山口県内の大学や高専、企業の研究所などの関係機関・団体が協力し、科学の面白さを子供たちに伝えることを目的に、夏休みに開催されています。

5. 学生による地域貢献

(1) 「おくすり手帳」啓発ポスターを制作

本学の学生が、「おくすり手帳」啓発ポスターを制作しました。

入賞者には、山陽小野田薬剤師会の上林雅樹会長から記念品が授与されるとともに、作成された作品は、市内の薬局に順次掲示されました。

山陽小野田薬剤師会と本学は、連携協定を締結しており、地域の健康、医療、福祉の発展に協力して取り組んでおり、今回のポスター制作は、山陽小野田市スマイルエイジング強化月間の一環として実施しました。



【各部門 入賞作品】

「特選」2作品、「入賞まであと一步 会長賞」2作品、「特別賞」1作品の計5作品が入賞

6. 地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 大学リーグやまぐち

山口県内の高等教育機関の連携を深め、また、行政、産業界等と広範なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与することを目的とした組織です。

本学も、全体会議や県内就職部会、地域貢献部会といった会議に定期的に参加しています。

(2) 地域卒業研究

学部の卒業研究において、学生が地域に関する研究テーマに取り組んでおり、2022年度には次のテーマに取り組みました。

本学では、地域に関する卒業研究を奨励しており、地域卒業研究に取り組む研究室には、学長から実験実習費の加算配分を行う制度があります。

学科	教員氏名	研究テーマ
工学部応用化学科	池上 啓太	吸着剤と触媒との融合による循環型二酸化炭素変換システムの開発
工学部応用化学科	池上 啓太	水素製造を可能にする水分解用光触媒電極の開発
工学部機械工学科	結城 和久	翼竜研究を活用した山陽小野田市内小学生に対する出前教育活動の活性化
工学部機械工学科	結城 和久	山陽小野田市内農村部における夏冬ハイブリッド農業の提案
工学部電気工学科	阿武 宏明	火力発電所における未利用熱回収熱発電システムの検討
薬学部薬学科	相良 英憲	山口県における薬局業務拡大に向けた現状把握と拡大可能な業務予測
薬学部薬学科	尾家 重治	山陽小野田市立中央図書館での図書の清潔保持法の検討
薬学部薬学科	田中 宏幸	長門ゆずきち(CitrusNagato-yuzukichi)の抗菌活性の探索研究
薬学部薬学科	恵谷 誠司	避難所における災害支援ができる薬剤師育成のための研修プログラムの開発
薬学部薬学科	恵谷 誠司	山陽小野田市における妊婦・授乳婦の医薬品等の適正使用に向けた啓発
薬学部薬学科	恵谷 誠司	医薬品自発報告データベースの解析に基づく薬学生主体の副作用防止啓発活動に関するアンケート調査（モデル地域：山陽小野田市）
薬学部薬学科	恵谷 誠司	山陽小野田市およびその周辺地域に暮らす外国人への災害啓発ならびに地域医療提供施設との関係促進を目的としたツール作成
薬学部薬学科	恵谷 誠司	山陽小野田市の高校生・大学生を対象としたサプリメント・健康食品の適正使用に係る啓発資材の作成
薬学部薬学科	恵谷 誠司	若年層を中心とした大麻の正しい理解に関する啓発教材の開発
薬学部薬学科	恵谷 誠司	高齢者のフレイル予防のための植物と鳥を楽しむ散歩コースの設定
薬学部薬学科	有海 秀人	心不全治療後の再入院を予防する地域で活躍する薬剤師の役割
薬学部薬学科	有海 秀人	山口県民へのセルフメディケーション及び一般用医薬品の適正使用に向けた山口県健康エキスパート薬剤師の役割
薬学部薬学科	稲見 圭子	山口県産農産物(厚保くり、秋芳梨)のラジカル消去作用
薬学部薬学科	稲見 圭子	山口県産農産品小野茶によるDNA損傷抑制作用
薬学部薬学科	立花 研	山陽小野田市に飛来する浮遊粒子状物質の性状の季節性変動と健康影響
薬学部薬学科	田所 高志	次世代バイオ医薬品開発を目指す人工小型抗体の高機能化

(3) リーダーシップ論

リーダーシップ論は、様々な分野のリーダーたちの経験を学び、大学生が自分自身のリーダーシップのスタイルを考える授業です。2022年度は、山陽小野田市の藤田剛二市長や本学の学長特別補佐である石川敏弘教授を始め、地域の企業経営者や工場長、本学の教員など計12名のリーダーたちから、リーダーシップに関する経験を学びました。



山陽小野田市役所 藤田剛二市長による講義



本学 石川敏弘教授による講義

(4) 地域技術学

地域技術学は、山陽小野田市内の企業が抱える課題について、学生が現地で現物を見ながら現実を学びつつ、ブレインストーミングやKJ法、SWOT分析などのツールを駆使して、課題の解決方法を検討し、発表する授業です。社会人基礎力を習得し、就職に強い人材を育成することを目的としています。2022年度は宇部フィルム株式会社、大阪新薬株式会社、共英製鋼株式会社山口事業所、中国電力株式会社新小野田発電所、都市産業株式会社、永山酒造合名会社、BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社小野田事業所、株式会社明防にご協力を頂きました。長州産業株式会社の岡本晋代表取締役社長、山口県産業技術センターの元理事長である山田隆裕氏から地域産業の抱える課題や解決方法に関する講話を頂きました。さらに学生の最終発表に対して、山陽小野田市の藤田剛二市長や山田隆裕氏、協力頂いた企業の皆様から講評を頂きました。



中国電力株式会社新小野田発電所での学生による見学の様子

(5) 地域産業論

地域産業論は持続可能な社会づくりのための4本柱である環境・社会・経済・制度の側面から山陽小野田市、山口県における産業と地域の発展のあり方を学ぶ授業です。2022年度は山陽小野田市の古川博三副市長をはじめとして、関連する専門知識を有する11名の外部講師と企業勤務経験のある本学の教授による講義が行われました。



山陽小野田市役所の古川博三副市長による講義

(6) 地域社会学

地域社会学は、学生が山陽小野田市内でフィールドワークを行い（地域に出て調査を行い）、集めたデータを統計的に分析し、地域課題の解決方法を考える授業です。2022年度には川上地域、サビエル高校、きららガラス未来館、いきいき百歳体操の実施会場で学生がフィールドワークを行いました。分析結果を踏まえ、課題の解決方法をフィールドワーク先の方々に提案しました。



いきいき百歳の実施会場でのフィールドワーク



きららガラス未来館でのフィールドワーク

(7) 市内県内企業見学

(機械工学科)

開催日：2023年1月13日（金）

場 所：株式会社ヤナギヤ/UBEマシナリー株式会社

内 容：2年生58名が機械工学実習の一環のプログラムとして株式会社ヤナギヤとUBEマシナリー株式会社の2社を訪問しました。コロナ禍の影響で3年ぶりの対面での企業見学でした。各社の事業概要の説明の後、株式会社ヤナギヤではカンピカ製造装置をはじめとする様々な食品の製造装置を、UBEマシナリー株式会社では大形の射出成型機などの製造現場を見学しました。見学時に積極的に質問をする学生も多く、モノづくりの現場を実際に見ることの重要性を改めて認識しました。また、見学後の学生のレポートでも技術開発の面白さや講義で学んだことが理解できたこと、そして大学の近くにもグローバル企業があることに気づかされたといった記載が多く見受けられ、学生にとっても将来を考える良い機会となりました。

(電気工学科)

開催日：2022年7月8日（金）・7月15日（金）

場 所：中国電力株式会社新小野田発電所

内 容：電気工学科2年の学生66名が中国電力新小野田発電所の見学を行いました。コロナ感染症防止の観点から2グループに分れて、1グループ1日ずつ2日間に渡って行われました。この見学は電気工学実験1において発電施設の実際のオペレーションを学ぶためのもので、中国電力新小野田発電所様の協力で毎年行っており、コロナ感染症が流行するなかでも途絶えることなく行われています。感染症防止の観点から残念ながら発電所館内の立ち入りは出来ませんでしたが、①発電所の所員の方のレクチャー及び発電部品展示品見学による発電所での発電所の仕組みの理解 ②貯蔵場の見学による1週間の発電に用いられる石炭使用量の理解 ③発電所に於ける廃棄物の再利用の努力など現場でしかできない学びが多く得られました。この見学は特に、電磁気学1, 2・電気回路1～4・発電変電工学と関連しています。

(応用化学科)

開催日：2022年11月29日（火）

場 所：テクノUMG株式会社/UBE株式会社

内 容：2年生の74名が、実験科目「有機化学実験」の学外学習として、近隣地元企業のテクノUMG株式会社とUBE株式会社を訪問し、工場内を見学させていただきました。

テクノUMG株式会社では、事業概要の説明、主力製品であるABS樹脂製品につ

いてのお話を聞きました。

また、UBE株式会社では、バスで企業担当者の説明を聞きながら、工場内を巡回見学し、社屋内では、動画による会社紹介や展示室i-Plazaで製品等についての説明を受けました。



(8) 薬学教育のための市民模擬患者

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：薬学生のコミュニケーション教育のため、一定のトレーニングの後、実際の患者さんのように症状や会話を表現できる患者役を演じる人のことを模擬患者（SP：通称エスピー）といいます。薬学生の実習や実技試験では、患者役を演じていただきます。課題で準備されたシナリオを覚え、実際の患者になったつもりで、症状や副作用のことを話したり、薬の説明を受けたりします。本学では、未来の薬剤師を市民の皆様からの協力をいただきながら教育しています。



(9) 行政薬剤師による講義

開催日：2022年6月27日（月）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：早期体験実習の一環として、行政薬剤師（薬学人）が活躍する医療、保健、衛生、行政の現場に関する講義を聴講し、ディスカッションを行いました。

(10) 市内企業インターンシップ

山陽小野田市内に立地する企業において、学生のキャリア教育や職業体験を支援するためインターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2022年度は市内企業6社に対して12人がインターンシップに参加しました。

〈市内企業インターンシップ先〉

N J コンポーネント株式会社/宇部フィルム株式会社/株式会社オーネックス山口工場/
化薬ヌーリオン株式会社厚狭工場/山陽小野田市/長州産業株式会社

(11) 県内企業インターンシップ

山口県内に立地する企業を対象に、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、インターンシップが行われており、積極的に学生が参加しています。2022年度は県内企業24社に対して31人がインターンシップに参加しました。

(12) 学術と地域文化

薬学部において、地域を理解し、物事を多角的にみる能力を養うことを目的に、外部講師を招聘する学術と地域文化を開講し、あらゆる分野の一線で、また、地域で活躍する人の話を聞き、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学びました。2022年度のテーマと講師は次のとおりです。

日付	講師氏名	所属等
4月13日	藤田 剛二	山陽小野田市長
4月20日	杉浦 佳子	2021年東京パラオリンピックロード金メダリスト・薬剤師
4月28日	調 恒明	山口県環境保健センター所長
5月11日	小野田 淳人	山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部助教
5月18日	吉田 力久	山口県薬剤師会会長
5月25日	久保 久美子	全日本かるた協会 初代永世クイーン八段
6月1日	玉村 信一	萩焼陶芸家
6月8日	西川 慎	ガラス工芸作家、株式会社ニシカワグラスアンドアート代表取締役
6月15日	中嶋 克行	山陽小野田市福祉部高齢福祉課 地域包括支援センター主任技師
6月22日	豊島 聡	日本薬剤師研修センター理事長
6月29日	國澤 純	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所センター長
7月7日	狭間 研至	日本在宅薬学会理事長、ファルコメディコ株式会社代表取締役社長
7月13日	尾山 貴子	山陽小野田市健康増進課次長
7月20日	磯部 総一郎	日本薬剤師会専務理事
7月27日	樽井 隆直	セントラル硝子株式会社 執行役員宇部工場長
9月20日	中屋 豊	東都春日部病院 名誉院長、徳島大学 名誉教授
9月27日	中島 伸樹	前山口県庁農林水産部職員・獣医職
10月4日	浅井 義之	山口大学大学院医学系研究科 AI システム医学・医療研究教育センター教授
10月11日	白澤 文吾	山口大学大学院医学系研究科医学教育学講座教授
10月18日	中津井 雅彦	山口大学大学院医学系研究科・医学部付属病院 AI システム医学・医療研究教育センター教授
11月1日	半矢 幸子	山陽小野田市食生活改善推進協議会会長
11月8日	村中 隆	株式会社UBE 科学分析センター 有機分析研究室副室長
11月15日	小林 晃子	山口県薬剤師会学校薬剤師部会理事
11月22日	篠田 晃	山口大学大学院医学系研究科神経解剖学講座教授
11月29日	町田 佳男	田辺三菱製薬工場株式会社小野田工場長
12月6日	有友 啓一	田辺三菱製薬株式会社 サプライチェーン本部戦略技術研究所長
12月13日	李 桃生	長崎大学原爆後障害医療研究所幹細胞生物学研究分野教授
12月20日	池辺 祐介	秋吉台自然動物公園サファリランド園長・獣医師
1月17日	末廣 寛	山口大学大学院医学系研究科臨床検査・腫瘍学講座准教授
1月24日	小林 誠	山口コ・メディカル学院 学院長

7. 地方公共団体との連携

(1) 山陽小野田市長による特別講義

開催日：2022年4月13日（水）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の専門家の話を聞き、学び、考えることで地域の歴史・文化の理解を深め、国際性（異文化・国際問題の理解）を涵養し、人間・社会・科学を幅広く俯瞰できる能力を養うことを目的とした講義「学術と地域文化1」にてご講演いただきました。今回の講義では、『リーダーシップ論』をテーマとし、山陽小野田市政の紹介や具体例を用いたリーダーとしての取り組みや志についてご講演いただきました。



開催日：2022年10月3日（月）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：地域の様々なリーダーたちから実例を学ぶことを通じて、学生が自分自身のリーダーシップのスタイルへの考察を深める講義「リーダーシップ論」にてご講演いただきました。『リーダーシップに纏わる人材育成』をテーマとし、コミュニケーションの取り方、10項目にわたる仕事の流儀、山陽小野田市におけるスマイルシティや協創によるまちづくりについて説明がありました。



藤田剛二市長によるリーダーシップ論での講義

(2) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。

2022年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は、市立図書館への貸出23件、市立図書館からの借受10件でした。

市立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、市立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「山陽小野田市立山口東京理科大学図書館」を選択することにより、市立図書館で予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができます。

(3) 江汐公園にある薬学部附属薬用植物園を活用

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に、薬学部附属の薬用植物園の整備をしています。江汐公園は約138万㎡という広大な公園で、江汐湖を中心とする美しい自然環境に恵まれ、四季折々の花が咲き誇る山陽小野田市の観光名所として市民に親しまれています。薬学部附属の江汐公園薬用植物園は、3,000㎡の園内に約400種1万株の薬用植物が栽培され、大学構内の薬用植物園とともに学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用しました。



(4) 住まいる奨励金

山陽小野田市は、市内に住民票がある新入学生を対象に、3万円を上限に市内の協力店約300店舗で利用できる経済的助成制度として「住まいる奨励金」を創設されました。本学は、学生に周知を行うとともに奨励金の申請受付及び学生への給付を行いました。



山陽小野田市「住まいる奨励金」

(5) スマイルチケットを本学学生全員に配布

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、市民生活を支援するとともに、地域における消費を喚起するため、市民の皆さんが市内のお店で利用できる商品券（スマイルチケット）を配布しました。

本学の学生には、住民票がない学生でも全員が配布対象としていただきました。



(6) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における2022年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山陽小野田市 都市計画審議会	都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。	望月正隆 学長
山陽小野田市 図書館協議会	図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べます。	共通教育センター 堤千佳子 教授 薬学部薬学科 細井 徹 教授
山陽小野田市 地域公共交通会議	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃・料金等に関する事項など公共公共交通網形成計画について協議します。	工学部電気工学科 井上 啓 教授
山陽小野田市空家等 対策協議会	空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空家対策計画策定の協議を行います。	共通教育センター 金田和博 教授
山陽小野田市 男女共同参画審議会	男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定及び変更に関するもののほか、男女共同参画の推進に関する施策の基本的及び重要事項について審査審議します。	共通教育センター 堤千佳子 教授
山陽小野田市 観光関係団体ネットワーク会議	山陽小野田市の観光関係団体や事業所のネットワークを構築します。	工学部電気工学科 井上 啓 教授
山陽小野田市 高齢者保健福祉推進 会議	高齢者の保健福祉環境づくりの総合的、かつ、計画的な推進に関する事項について調査し、審議します。	薬学部薬学科 坂井久美子 講師
山陽小野田市 かるた振興委員会	山陽小野田市の特色ある文化のひとつである「小倉百人一首かるた」の普及振興に積極的に取り組み、芸術文化によるまちづくりを推進します。	薬学部薬学科 坂井久美子 講師
山陽小野田市文化財 審議会	国・県・市が指定をしている文化財の保護や、収蔵に関すること、また今後の活用に関するものを審議します。	共通教育センター 内田陽三 教授
山陽小野田市 健康づくり推進協 議会	市民の実情に応じた健康づくり施策を推進します。	薬学部薬学科 恵谷誠司 教授

委員会・審議会	内 容	本学委員等
山陽小野田市 教育に関する事務の 管理及び執行の状況 の点検及び評価	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します。	共通教育センター 金田和博 教授
山陽小野田市下水道 事業検討委員会	汚水処理施設整備構想及び公共下水道全体計画の見直しのために、総合的な視点から検討を行います。	工学部応用化学科 北條 信 教授
山陽小野田市文化に よるまちづくり推進 委員会	山陽小野田市における文化芸術の振興及び文化によるまちづくりの推進に関し、広く市民から意見を聴くために設置されています。	薬学部薬学科 坂井久美子 講師
山陽小野田市 ガラスのブランド化 推進協議会	本事業受託者と小野田ガラス株式会社が連携して作成する計画等について、ガラス、文化、商業、地域づくり等の関係団体から推薦された委員が、ガラスのブランド化について協議しています。	共通教育センター 中村 洋 准教授
山陽小野田市子ども 読書活動推進計画検 討委員会	山陽小野田市執行機関の附属機関に関する条例（平成 17 年山陽小野田市条例第 30 号）に基づき、山陽小野田市子ども読書活動推進計画について検討します	共通教育センター 堤千佳子 教授
		薬学部薬学科 細井 徹 教授
山口県立 豊浦高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体の方から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部応用化学科 星 肇 教授
山口県立 下関中等教育学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体の方から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部機械工学科 吉村敏彦 教授
山口県立 小野田高等学校 学校運営協議会	学校と地域を結ぶ組織として、学校の教員と地域の様々な組織・団体の方から構成されている学校運営協議会を設置しています。	工学部応用化学科 白石幸英 教授
山陽小野田市立本山 小学校学校運営協議 会	学校づくり、地域づくりの両視点から地域ぐるみで子どもたちの学びを支える取組を推進しています。	共通教育センター 福田みのり准教授
山口県立宇部高等学 校スーパーサイエン スハイスクール運営 指導委員会	スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。	大学院工学研究科 石川敏弘 教授
山口県立下関西高等 学校スーパーサイエン スハイスクール運 営指導委員会	スーパーサイエンスハイスクールの運営に関し、専門的見地から指導・助言を行うため委員会が設置されています。	大学院工学研究科 石川敏弘 教授
		薬学部薬学科 松永浩文 教授
山口県立 宇部総合支援学校	学校薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。	薬学部薬学科 尾家重治 教授
宇部市 学校給食センター	薬剤師 学校保健安全法に基づき、学校内の衛生保持に関する指導・助言者としての職務に従事します。	薬学部薬学科 尾家重治 教授
山口県やまぐち産業 イノベーション促進 補助金審査委員会	山口産業イノベーション促進補助金採択事業の選定、事業評価を行います。	大学院工学研究科 石川敏弘 教授
山口県環境審議会	環境基本法第 43 条及び水質汚濁防止法第 21 条の規定に基づき、県内の環境安全に関する基本的事項及び水質の汚濁防止に関する重要事項を調査審議します。	薬学部薬学科 立花 研 准教授
山口県ジェネリック 医薬品安心使用促進 協議会	ジェネリック医薬品に係る普及啓発・情報提供、使用状況調査、使用促進を図るための調査研究に関することなどについて協議・調整を行います。	薬学部薬学科 黒川陽介 教授
山口県 地方薬事審議会	地方での薬事に関する事項を審議します。	薬学部薬学科 井上幸江 教授
山口県教員養成等検 討協議会	山口県における次代の教育を担う人材の養成・採用や、学校の中核となって活躍する人材の育成に向けて、教育委員会・学校と大学等が連携した取組を行っています。	共通教育センター 福田みのり准教授

8. 消防署との連携

(1) 学生消防団員

高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、消防団員の任用資格を市内に通学する学生も対象とすることに変更し、本学で学生消防団員を募り、2022年度は合計18名の学生が参加しました。



(2) 防災訓練

開催日：2022年10月7日（金）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、富士産業株式会社

内 容：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、富士産業株式会社の協力のもと、防災訓練を実施しました。

第1部では、授業中に地震が発生したことを想定して、学生の避難誘導をはじめ、安否確認、地震により発生した火災にかかる消火方法の確認及び防火区画の形成、救助活動、トランシーバーを用いた情報共有などを実施しました。第2部では、発火物に対する消火器を用いた消火訓練、消火栓の使用方法を確認したほか、山陽小野田市からお借りした起震車で震度7までの地震体験を実施しました。



第1部：座学の様子



第1部：救助活動の様子



第2部：消火訓練の様子



第2部：地震体験の様子

(3) 普通救命講習

2022年は6回、普通救命講習（Ⅰ）を宇部・山陽小野田消防局小野田消防署から講義を受け、合計70名の教職員が受講しました。

心肺蘇生法、AEDの使用方法、異物除去及び止血法の方法を学ぶとともに、講習会を通して、応急手当の知識と技術を身につけた。



9. その他の取り組み

(1) 船鉄バスのフリーパスについて

本学と船木鉄道株式会社は、公共交通フリーパスに関する協定を締結しました。

本協定により、2020年4月から、本学に通う学生は学生証を提示することで、船木鉄道株式会社（船鉄バス）が運行する路線バスの全路線を無料で利用できます。

(2) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。

2022年度の企業等の利用状況は次のとおりです。

利用企業数	利用回数
4 社	13回

10. 地域からの入学

(1) 地域推薦

入学者に占める県内出身者の比率を高めるために、学校推薦型選抜では県内の高校等出身者を対象とする「一般推薦【県内枠】」及び「指定校推薦」を採用しており、工学部では24.2%、薬学部では23.3%を県内からの募集人員に設定しています。

2023年度の入学者選抜区分と募集人員は、以下の表のとおりです。

(単位：人)

学部	入学 定員	入学者選抜区分と募集人員				
		県内枠	指定校	計	割合	一般選抜 その他
工学部	260	24	39	63	24.2%	197
薬学部	120	20	8	28	23.3%	92
計	380	44	47	91	23.9%	289

(2) 入学者に占める山口県出身者（学部）

2023年度の入学者409人のうち、県内出身者は90人と、入学者全体の22%となりました。

(単位：人)

学部	入学者数	山口県内出身者		山陽小野田市出身者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	285	53	18.6%	19	6.7%
薬学部	124	37	29.8%	3	2.4%
計	409	90	22.0%	22	5.4%

11. 地域への人材輩出

大学院進学者を除く2022年度卒業者数は、工学部が141名、大学院（修士課程）が20名で、このうち県内への就職者は43名（就職者の約20.2%）となっています。

また、県内出身者41名の県内就職者数は、約58.5%となっています。

主な就職先は、製造業、建設業です。

（単位：人）

	就職者数	山口県内就職者数		山陽小野田市内就職者数	
		人数	割合	人数	割合
工学部	135	39	28.9%	7	5.2%
大学院 （修士課程）	20	4	20%	1	5%
計	155	43	27.7%	8	5.2%

※山口県内企業は県内に本社または事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社または事業所がある企業を含む

12. 地域への経済波及効果

本学が立地することによる地域への経済波及効果（2022年度）

	山口県への経済波及効果	山陽小野田市への経済波及効果
直接効果	31.2 億円	18.3 億円
生産誘発額	25.9 億円	15.0 億円
付加価値誘発額	16.0 億円	9.4 億円
総合効果	73.1 億円	42.7 億円

13. 市内人口の約35人に1人が理科大生

2023年5月1日現在、山陽小野田市の人口59,920人に対し、本学の学生数は1,687人（学部1,636人、大学院51人）となっており、市内人口の約35人に1人が理科大生となります。

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL: 0836-88-3500 (代表)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University